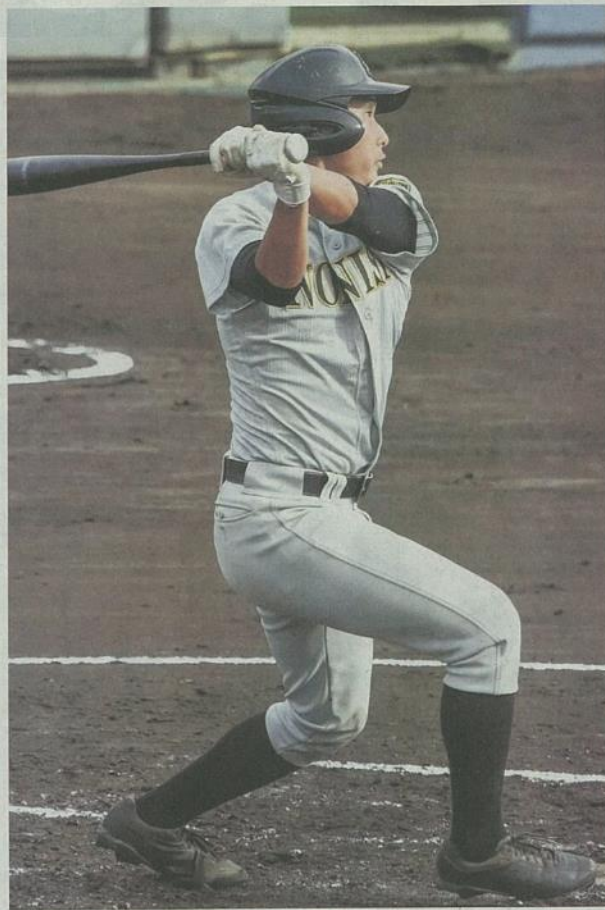


来春のセンバツへの第2関門となる秋季青森県高校野球選手権が8日、県内2球場で開幕した。初日は1回戦4試合が行われ、工大一が7-0で七回コールド勝ち。八学野西は大湊との県南勢対決を制した。今夏準優勝の青森山田は、同優

青森県 秋季高校野球

勝の弘学聖愛に4-0で快勝。弘前南は木造に競り勝った。

県高野連は新型コロナウイルス感染防止対策として、今大会の試合日程、会場を公表しておらず、保護者を含めて完全無観客で開催している。(取材班)



【大湊-八学野西】初回八学野西1死二、三塁、塩倉拓実が左越え適時二塁打を放ち、2-0とする

初回6連打 4点先制

野西打線爆発

八学野西が初回の攻防を制して流れを引き寄せた。守っては無死から連打を浴びながら併殺などで後続をしっかりと断ち、攻めては鮮やかに4点を先制。寺嶋恭祐監督は「ロースコアを予想していたので正直びっくり。甘い球を逃さず、しっかりとバットが振れていた」とナインをたたえた。

6日の組み合わせ決定後、右横手投げの相手先発を想定した打撃練習に力を入れてきた。この日の試合では「ベルト付近の高さを狙うこと、低めの打球を意識させ

ハイライト

た」と寺嶋監督。ナインは初回から本領を発揮した。柴田守唯の中前打を皮切りに、6連打を含む7安打で4得点。左

越え二塁打で2点目を挙げるなど、この試合9安打2打点だった中軸の塩倉拓実が「最初の打席から対応できた。練習の成果を出せた」とうなずいた。

大量点を背に、塩倉は先発としてマウンドでも躍動。高い制球力を武器に五回を無失点で乗り切った。六回からは外野に回ったが、仲間が2点を奪われると、4番手として再びマウンドに上がり、追加点を許さなかった。「内角直球で打者を攻めることができた」と納得の表情を浮かべた。

準々決勝の相手は、今春の県大会2回戦で敗れた東義。塩倉は「力負けしないように投げる」とリベンジへ闘志を燃やしていた。(上村公悟)

1回戦

大湊 0 0 0 0 0 1 0 0 1 | 2
八学野西 4 1 0 1 0 1 0 0 X | 7

(大) 津島、武田、津島一木村
(八) 塩倉、斎藤、樋口、塩倉一伊藤
▷三塁打 赤坂(八)▷二塁打 向井、木村、谷崎(大)小笠原2、塩倉、柴田(八)
▷暴投 津島(大)塩倉(八)▷捕逸 伊藤(八)
▷試合時間 2時間16分
(球審=蝦名、塁審=玉内、中村、菊地)

【評】八学野西は初回、塩倉の適時二塁打など7安打を集めて4点を先制すると、その後も小刻みに加点した。投げては塩倉ら3人の継投で反撃を交わした。大湊は打線が思うようにつながらなかった。6点を追う六回に無死満塁の好機を迎えたが、捕逸による1点にとどまった。